

第十話

屁へえつたれの屁のじょう之丞う



むかし。あるところに、屁へえつたれの屁のじょう之丞うという人があった。
たいへん屁をたれるのがうまい人で、

「屁を三つ吹きなさい」

こう言うと、「ぶっ、ぶっ、ぶっ」と、三つ鳴らす。

「五つ吹きなさい」

こう言うと、「ぶっ、ぶっ、ぶっ、ぶっ、ぶっ」と五つ吹く。

それで有名だったんだと。

あるとき、観音様を背負って島々をまわって、それで米なんか
もらって歩く六部ろくぶがやってきたんだと。

屁へえ之丞のじょうが、さっそくちよつかいかいかけて、

「やあやあ。六部さん。あんた、おれと、なんか競争するもあつか」
って聞いたんだと。ところが、この六部もたいそう勝気な人で、
「あんたがそう言うんなら、おれも遠慮はしねえよ。んで、競争
してみようや」

と、まず、こうなったんだと。

なんで勝負をつけるか、ということになって、へえのじょう屁之丞は「屁」で、
六部は「かね鉦」で競争することになったんだと。

そして、部落の長老が、

「んじゃ、わたしが軍配を取るから」
ってわけで、始まったんだと。

「おれが屁をひとつたったら、お前は鉦を一つ鳴らせ」
まず、こういうことになった。

「よーい。はじめっ」

へえのじょう屁之丞が屁をひとつ「ぶっ」とたれると、六部が「かーん」
と鉦をひとつ鳴らす。

へえ屁を二つ「ぶっ、ぶっ」と鳴らすと、「かん、かん」と鉦が二つ鳴る。
お互いに、四つも五つもやったんだよ。

鉦はなんぼでも叩くのいいけれど、へえのじょう屁之丞は屁えたれつづけ
るので疲れてや、負けてならねえって、いきなり「ぶっーーーーー」
と、長く長く屁をたったんだと。

そしたら、六部も「かん、かん、かん、かん、かん……」つて鉦を叩いたんだと。

へえのじょう 屁之丞は、それを聞いて、真っ赤になって文句つけたとや。

「おれは、ぶっーーーーっって、一続きに長くたったのに、おまえのは、かん、かん、かん……って、途切れ途切れでねえか。そいつはだめだ。かーーーーーんって長く鳴らせ」

したら、六部は鉦を一生懸命にこすって、長い音を出そうとしたけど、長い音は出なくて、六部の負けとなったんだとや。

昔はおもしろい人がよくいたもんだね。